

□生活科学研究科博士後期課程の研究指導教員の決定と研究指導について

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題と自らの専門分野、指導環境などに基づき、学生とともに研究課題を定め、主たる研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に資する授業科目について、シラバスや履修モデルを参考に履修指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名が担当する。

■研究指導教員の決定手順

1. 学生は、出願前に希望する教員と面談を行い、希望する研究指導教員を記入した大学院入学選抜試験の出願書類を提出する。
2. 入学後、研究科教授会において、研究指導教員を決定する。

■副指導教員制度

1. 副指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導に関する相談や調整を行う。
3. 副指導教員は、学生ごとに2名が担当する。

■研究指導計画

本研究科における研究指導計画は、以下の1～4のとおりである。指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次前期）

学生は、指導教員とともに相談して研究指導計画書の研究計画を記入する。

 - (1) 学生は、指導教員と相談して先行研究の整理、研究課題の明確化などを行い、研究計画（長期、短期）を立案する。
 - (2) 学生は、副論文①の研究に着手する。

指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究計画書に研究指導計画を記載し、研究計画に基づき、課程修了までの研究計画を1年ごとに記載し、学生と副指導教員に明示する。
2. 研究の遂行（2年次3月頃まで）
 - (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。
 - ① 1年次では、12月頃までに副論文①をとりまとめ、学術雑誌等に投稿する。
 - ② 2年次では、5月頃までに副論文②を学術雑誌等に投稿する。

- ③ 9月に中間発表を行い、12月頃までに副論文③を学術雑誌等に投稿する。
 - (2) 指導教員は、研究の進捗状況に応じた指導を適宜行う。
 - (3) 指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。
3. 博士論文の作成（3年次11月頃まで）
- (1) 学生は、3年次に学位論文執筆計画を確定し、学位論文を執筆する。
 - (2) 指導教員は、博士論文の形式、作法などを指導する。
4. 博士論文の提出（3年次12月頃）
- (1) 学生は、12月頃までに博士論文を提出する。
 - (2) 学生は、学位論文審査会（1月頃）、公聴会（2月頃）で発表し質疑応答を行う。
 - (3) 指導教員は、学位論文審査委員会終了後、研究指導報告書および論文審査結果の要旨等を研究科教授会に提出し、承認を得る。